

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	長岡技術科学大学
整理番号	B04
構 想 名	グローバル社会を牽引する実践的技術者育成プログラム ～グローバル産学官融合キャンパス構築～

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

(総括評価) A	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
(コメント)	<p>事業期間全体において、高専などと接続する技術科学教育を国際地域戦略と、企業ネットワークを通じて展開し、グローバル社会を牽引する実践的な技術者を育成することを目的として進められたものとなっている。その展開においても、高専-技大教育モデルを海外拠点校に展開する「GIGAKU（技学）教育ネットワーク」と、産学連携モデルを日本企業の戦略的海外拠点に展開する「GIGAKU テクノパークネットワーク」を通じて「産学官融合キャンパス」を構築するという明確なビジョンが設定されていたことで、成果としても着実なものが出ており評価に値する。</p> <p>具体的には、産業界とのネットワークにより、中小企業との国際共同研究や海外テクノパーク、コーディネーターの展開などで顕著なものが見られ、企業等への海外進出の結果として、企業からの寄附金支援を得ることが可能となり事業の自走化体制が構築されている。また、若手や女性、外国人といった多様な研究者の雇用促進を目的とした年俸制適用者の拡充、テニュアトラック制度の活用、選考の工夫や研修を通じた職員の英語能力の向上、国際経営協議会の設置など、経営・ガバナンス面での取組みも進められている。さらに教育面では、「UNESCO Chair プログラム」、「UNITWIN プログラム」の認定を受けるなど、持続的開発目標への国際貢献にも積極的に取り組んでおり、本事業にて実施した教育プログラムやグローバルな取組は大いに評価されるべきものである。これらにより、多様な留学生の受入れに成功し、その留学生を TA に採用して日本人学生の語学研修を進めるなどの成果に繋がっている。</p> <p>一方で、留学生の受入れが進んでいる反面、日本人の語学力向上や海外派遣には大きな課題が残るため、抜本的な改善が求められる。また、他大学への展開も限定的であり、国際化を相互に加速させるために、異なる性格の国内他大学との幅広い連携協力のより一層の推進が望まれる。</p> <p>最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。</p>